

2 学校経営計画

学校番号	25	学 校 名	富士高等学校（定時制）	校 長 名	小林 浩明
------	----	-------	-------------	-------	-------

1 スクール・ミッション

富士地区において幅広い学びの場を提供する地域に根付いた学年生定時制の伝統校として、生徒一人一人に対応したきめ細かな指導やわかりやすい授業実践に基づく丁寧な学習指導を通して、地域社会に貢献するために、自己管理がきちんとでき主体的に行動できる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
富士高の校訓は「克己心身を練れ 勤勉実力を養え 至誠事に当れ」です。この校訓のもと、卒業までに次の5つの資質・能力を育成します。 自己有用感：他者との関わりの中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚 主体性：自分の意志や判断に基づき、責任を持って行動する力 粘り強さ：物事に取り組む際、簡単にあきらめず根気強く長く続ける力 協働性：他者と協力して課題解決に向かう力 規律性：社会や集団の決まり事や人との約束をきちんと守り、状況に応じて自らを律する力	富士高GPに掲げた5つの資質・能力を育成するため、以下のような教育課程を編成します。 なお、各々の教育活動を通じて育てたい資質・能力は別紙に掲載します。 ○授業：地域における幅広い学びの場として、一人一人の生徒に対応した、きめ細かな学習指導とわかりやすい授業を行います。 ○探究活動（総合的な探究の時間）：各教科・科目等で身に付けた資質・能力を総合的に活用・発揮しながら、生徒が自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現できるようにします。 ○学校行事・生徒会活動：生徒が主体的に課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、意思決定することを通して、学校生活を充実、向上させることを目指します。 ○ホームルーム活動：生徒が基礎的な集団における活動を通して、学校生活への適応を図るとともに、主体的に社会に参画し、よりよい生活や人間関係を形成することができるようにします。 ○部活動：異なる年齢の生徒同士が交流することにより、協働して目標を実現しようとする態度を育てます。 ○キャリア教育等：生徒一人一人の発達段階に応じて、家庭や地域と連携しながら、社会人として生きていくために必要な基礎的資質・能力を育てます。	本校に入学する生徒には、以下に掲げた能力や適性を求めています。 ア 健康や安全に関する自己管理ができ、基本的生活習慣が確立している生徒 イ 自主自律の精神にあふれ、主体的に行動や学習をする意欲のある生徒 ウ 思いやりにあふれ、人との関わり合いを大切にし、異なる価値観を認めることのできる生徒 エ 広い視野とチャレンジ精神を有し、課題に粘り強く取り組み、社会に貢献しようとする意欲のある生徒 なお、入試における具体的選抜方法と、前述ア～エの関係は次の通りです。 ○学力検査等により、上記イ及びエに掲げた能力や適性を有するかを評価します。 ○面接により、上記ア、イ、ウ、エに掲げた能力や適性を有するかを評価します。 ○調査書の記載により、上記ア、イ、ウ、エに掲げた能力や適性を有するかを評価します。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 基礎基本を大切にし、ユニバーサルデザインの考え方をを用いた分かりやすい授業を実践するとともに、その実現に向け、「学びの基礎診断」の測定ツール等を活用した授業改善に取り組む。

【富士高GPの5つの資質・能力のうち、主体性、協働性に関連】

※学校アンケートで「授業に積極的に取り組んでいる」と回答する生徒90%以上（前年87%）

- イ 時間の認識を育て、欠席・遅刻を減らすことで、基本的生活習慣の定着を図る。
 【富士高 GP の 5 つの資質・能力のうち、主体性、粘り強さ、規律性に関連】
 ※年間の出席率 95%以上(前年 96%)
- ウ 生徒が自ら行動することを目指し、生徒会活動、部活動の活性化を図る。
 【富士高 GP の 5 つの資質・能力のうち、自己有用感、主体性、粘り強さ、協働性、規律性に関連】
 ※学校アンケートで「学校行事・生徒会活動、部活動に積極的に参加している」と答える生徒 85%以上
 (前年 87%)
- エ 健康、安全に関する自己管理を図る。(イに同じ)
- オ 保護者、地域から信頼を寄せられる学校づくりを行う。
 ※学校アンケートで「入学させてよかった」と答える保護者 95%以上 (前年 98%)

3 本年度の取組 (重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当 部署
ア	授業改善を促進する。	● 定通教育研究会作成問題を「学びの基礎診断」の測定ツールとして活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、授業アンケートや授業改善研修等を実施し、指導の改善につなげる。	● 測定ツールで把握した生徒の実態や研修の成果等を基に、「授業改善に取り組んだ」と答える教員 100% ● 6 月と 10 月に全学年を対象とする授業アンケートで生徒の学習意欲が向上する。「授業に積極的に取り組んでいる」と答える生徒 90%以上	教務
	学校生活の満足度を向上させる。	● ユニバーサルデザインに基づく授業改善と生徒理解に努める。1 月に生活アンケートを実施し、その成果を検証する。	● 高校生活に「満足している」、授業内容が「わかる」生徒の割合を 90%以上にする。	教務 研修
イ	出席率を向上させる。	● 家庭、職場との連携を図ると共に、統計を活用し、生徒に自覚を持たせる。	● 年間出席率 95%以上にする。	教務 担任
ウ	学校の内外において、生徒会活動の場を広げる。	● 行事への積極的な参加を促す。	● 校内の行事に積極的に参加し、校内文化祭・合同文化祭を成功させる。	生徒
	部活動や各種コンクールへの参加を奨励する。	● 県大会やコンクールへの積極的な参加を促す。	● 全国大会や東海大会等の出場者、コンクール入賞者を 10 人以上にする。 ● 定期的に活動する部活動の人数を 30 人以上にする。 ● 学校行事・生徒会活動、部活動に「積極的に参加している」と答える生徒 85%以上	生徒
エ	健康、体力の増進についての自覚を促す。	● 保健体育の授業の充実を図るとともに、健康関連の行事を行う。 ● 薬学講座等を通じて命の大切さを学ぶ。	● 新体力テストにおける優秀校の表彰を目指す。	生徒 保健
オ	保護者、地域との信頼を深める。	● 保護者との面談を積極的に行うとともに、地域の要望に素早く対処する。	● 保護者アンケートで「入学させてよかった」を 95%以上にする。	教頭
カ	働き方改革を踏まえた業務改善を推進する。	多忙化解消のための業務改善の推進 ● 目的に立ち返って学校行事等の意義を見直す。 ● 会議、印刷物等の縮減を図る。	● 1 分掌 1 業務改善の提言	各担当
		教職員の健康を守る勤務管理 ● 教職員の休暇取得を励行する。 ● 職員室等で残留する業務を縮減する。	● 年休取得前年度比増 (最低 5 日以上) ● 時間外労働時間の前年比減少	管理 職